

平成30年度

教育委員会点検評価報告書
(平成29年度対象)

平成30年9月

大鰐町教育委員会

目 次

I	点検・評価の概要	1
II	点検・評価の対象及び方法	1
III	評価委員	1
IV	評価委員会	1
V	平成29年度 大鰐町の教育	1
	1 大鰐町が目指す町の姿	
	2 大鰐町教育委員会の基本方針	
	3 平成29年度 大鰐町教育方針体系図	
VI	教育委員会の活動状況	3
	1-1 教育委員の構成（平成29年4月1日現在）	
	1-2 教育委員の構成（平成30年3月31日現在）	
	2 教育委員会会議の開催状況	
	3 教育委員の行事等参加状況	
VII	主要施策の点検・評価	7
	1 学校教育の推進	
	2 社会教育の推進	
	3 芸術文化の振興と文化財の保護活用	
	4 生涯スポーツの振興	
VIII	平成29年度 主な事業と経費及び成果等	21
IX	評価委員による点検・評価	25

I 点検・評価の概要

趣 旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律で、教育委員会は、毎年その権限に属する教育行政事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表することが規定されております。

この法律の規定により、大鰐町教育委員会では、今後の効果的な教育行政の推進及び町民への説明責任を果たしていくために教育に関する点検及び評価を実施し、報告書にまとめました。

II 点検・評価の対象及び方法

点検・評価の対象は、前年度に管理及び執行した事務のうち大鰐町主要施策に基づく重点の事務事業を教育委員会が自己評価しました。

- A…達成している
- B…ほぼ達成している
- C…やや達成していない
- D…達成していない

III 評価委員

- ・藤 田 昇 治（元弘前大学生涯学習教育研究センター
兼大学院地域社会研究科准教授）
- ・村 井 富久子（元小学校教諭）

IV 評価委員会

- ① 平成30年7月17日（火）
- ② 平成30年7月25日（水）

V 平成29年度 大鰐町の教育

平成29年度 大鰐町の教育

1 大鰐町が目指す町の姿

湯の郷・雪の郷・りんごの郷 おおわに

- ① 美しく・潤いのあるまちを創る
- ② にぎわいと住みやすさのあるまちを創る
- ③ 活力と夢を育むまちを創る
- ④ 豊かな心と学びのまちを創る
- ⑤ 健やかで笑顔のあるまちを創る
- ⑥ みんなで築くまちを創る

（第5次大鰐町総合振興計画）

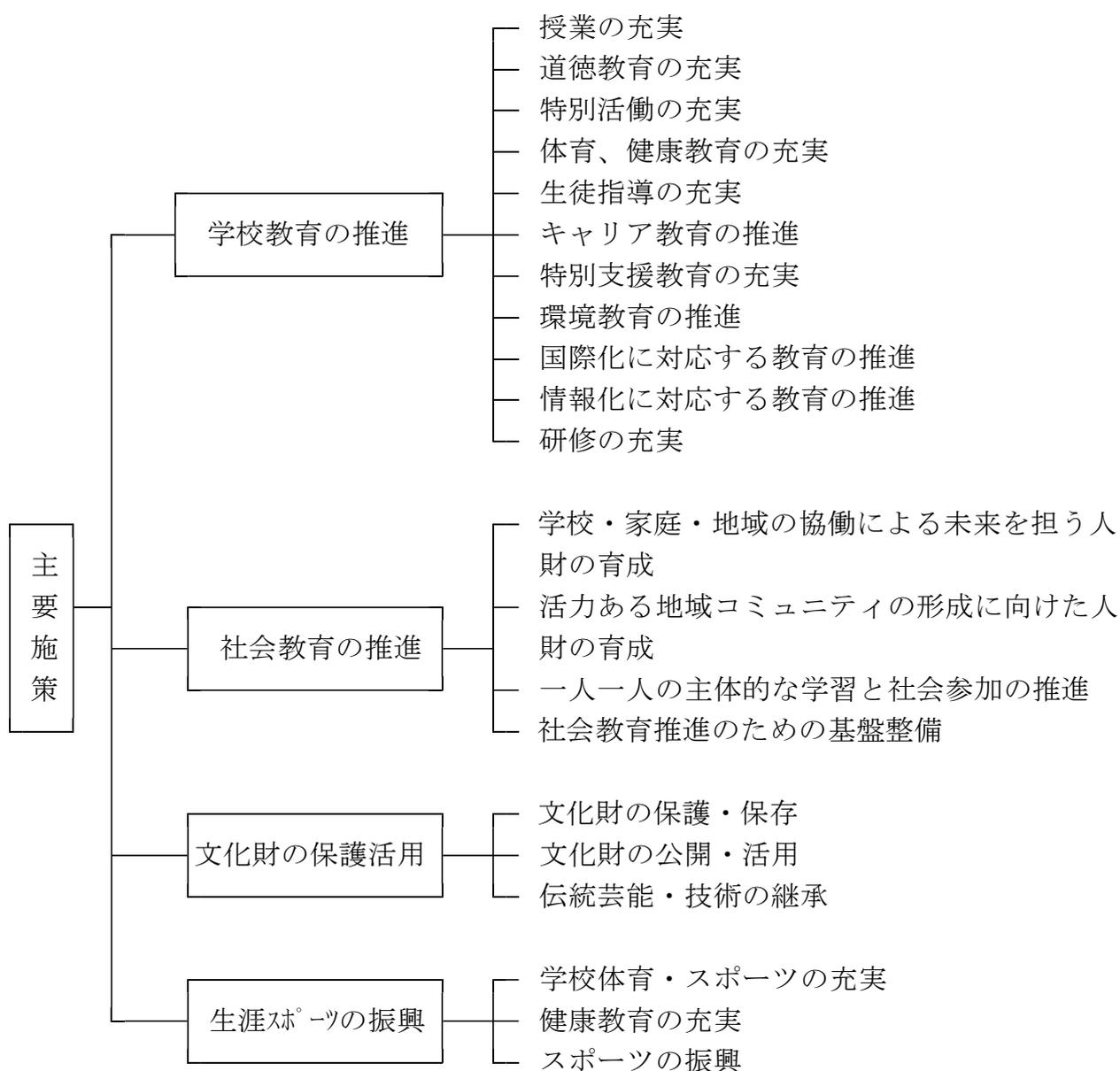
2 大鰐町教育委員会の基本方針

大鰐町教育委員会、その他関係機関・団体との連携を図りながら、町を育てる学力、町に生かせる学力を育てていきます。

大鰐町の未来を創る人財の育成

一人一人が学び、郷土を愛する、心豊かで
たくましい人づくり

3 平成29年度大鰐町教育方針体系図



VI 教育委員会の活動状況

1-1 教育委員の構成（平成29年4月1日現在）

役職名	氏名	委員としての任期	委員長及び教育長としての任期	備考
教育長	木田 専一	H28.10.29 ~H31.10.28	H28.10.29 ~H31.10.28	H24.10.29 教育長就任
教育長 職務代理者	成田 信一郎	H27.12.18 ~H31.12.17		H28.11.7 教育長職務代理者
委員	小西 祐	H28.10.29 ~H32.10.28		H20.10.29 就任
委員	貴田 範子	H27.7.13 ~H30.7.12		H23.7.13 就任
委員	竹内 初男	H25.12.25 ~H29.12.24		H24.9.19 就任

1-2 教育委員の構成（平成30年3月31日現在）

役職名	氏名	委員としての任期	委員長及び教育長としての任期	備考
教育長	木田 専一		H28.10.29 ~H31.10.28	H28.10.29 新教育委員会制度による 教育長就任
委員	成田 信一郎	H27.12.18 ~H31.12.17		H28.11.7 教育長職務代理者就任
委員	小西 祐	H28.10.29 ~H32.10.28		H20.10.29 就任
委員	貴田 範子	H27.7.13 ~H30.7.12		H23.7.13 就任
委員	山口 裕子	H29.12.25 ~H33.12.24		H29.12.25 就任

2 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は、原則として毎月1回「教育委員会定例会議」を開催している。また、必要に応じて臨時会を開催し、平成29年度の定例会は12回、臨時会の開催はなかった。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第13条及び「大鰐町教育委員会会議規則」の規定に基づき、平成29年度は以下の案件について審議及び報告事項による確認を行なった。なお、定例会では教育長に関わる業務内容を毎回報告し、教育委員間で認識の共有化に努めている。

開催日	件名
第1回 定例会 4月3日	報告事項1 業務報告 報告事項2 平成29年度大鰐町教育委員会事務局職員名簿について 報告事項3 大鰐町就学援助事業実施要綱の一部を改正する要綱について 議案第1号 大鰐町学校給食センター就業規則の一部を改正する規則について
第2回 定例会 5月15日	報告事項1 業務報告 報告事項2 大鰐町学校給食主任会議設置要綱について
第3回 定例会 6月5日	報告事項1 業務報告 報告事項2 大鰐町私立幼稚園就園奨励費補助金交付要綱の一部を改正する要綱について 議案第2号 大鰐町文化財審議委員の委嘱について
第4回 定例会 7月7日	報告事項1 業務報告 報告事項2 大鰐町小学校及び中学校部活動大会参加等に関する補助金交付要綱の全部を改正する要綱
第5回 定例会 8月4日	報告事項1 業務報告 議案第3号 平成30年度小学生道徳教科書採択について 議案第4号 英語指導助手就業規則の一部を改正する規則について
第6回 定例会 9月4日	報告事項1 業務報告 報告事項2 平成28年度教育委員会点検評価報告書

開催日	件名
第7回 定例会 10月5日	報告事項1 業務報告 議案第5号 社会教育施設の用途廃止について
第8回 定例会 11月6日	報告事項1 業務報告
第9回 定例会 12月4日	報告事項1 業務報告 報告事項2 大鰐町就学援助事業実施要綱の一部を改正する要綱について
第10回 定例会 1月10日	報告事項1 業務報告 報告事項2 大鰐町スポーツ奨励賞表彰要綱の一部を改正する要綱について 議案第6号 大鰐町社会教育施設管理規則の一部を改正する規則について
第11回 定例会 2月5日	報告事項1 業務報告 報告事項2 平成29年度青森県学習状況調査結果について
第12回 定例会 3月5日	報告事項1 業務報告 報告事項2 大鰐町就学援助事業実施要綱の一部を改正する要綱について 報告事項3 大鰐町特別支援教育就学援助支給要綱事業実施要綱の一部を改正する要綱について 報告事項4 大鰐町多目的広場設置条例案及び大鰐町多目的広場管理規則運営規則について 議案第7号 平成29年度学校教育活動表彰について 議案第8号 平成29年度文化活動表彰について 議案第9号 平成29年度スポーツ賞・スポーツ奨励賞表彰について 議案第10号 平成29年度退職教職員表彰について

3 教育委員の行事等参加状況

教育委員会は、教育委員会会議のほか、学校行事及び研修会等に参加している。

期 日	行事・研修会等	場 所	参加委員
平成29年 4月6日	南地方市町村教育委員会連絡協議会	黒石市	全委員
4月7日	大鰐町立大鰐小学校及び中学校入学式	各学校	全委員
5月8日	大鰐町教職員全員研修会	大鰐中学校	全委員
5月17日	青森県市町村教育委員会連絡協議会定時総会・ 研修会	青森市	全委員
5月21日	大鰐小学校運動会	大鰐小学校	全委員
6月5日	大鰐中学校運動会	大鰐中学校	全委員
6月26日	前期学校訪問（大鰐小学校・大鰐中学校）	各学校	全委員
7月11日	社会を明るくする運動	大鰐中学校	全委員
8月11日	大鰐町成人式	中央公民館	全委員
9月22日	南地方市町村教育委員会連絡協議会秋季研修会	田舎館村	全委員
11月15日	後期学校訪問（大鰐小学校・大鰐中学校）	各学校	全委員
平成30年 2月20日	大鰐小学校スキー大会	大鰐温泉スキー場	全委員
3月13日	大鰐中学校卒業式	大鰐中学校	全委員
3月16日	大鰐小学校卒業式	大鰐小学校	全委員
3月23日	大鰐町教育委員会顕彰式	中央公民館	全委員

VII 主要施策の点検・評価

1 学校教育の推進

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(1)授業の充実	一人一人の子どもが、各教科及び総合的な学習の時間等に主体的に取り組み、確かな学力を身に付けることができるよう、言語活動の充実を図りながら、一人一人の能力・適性に応じた指導と学習習慣の育成に努める。	<p>【小学校】 学力向上を学校の教育課題として、確かな学力の向上と学習意欲の向上に取り組んできた。C R T学力検査では、ほとんどの学年が全国平均を上回る結果となった。基本的な学習習慣を身につけさせながら、学習内容の定着を図った成果であるといえる。</p> <p>ただ、意欲面で課題が見られる学年もあるようで、「わかる」「できる」が次への意欲に繋がるような学びとなるよう工夫していく必要がある。</p>	A
		<p>【中学校】 確かな学力を身に付けることが、大鰐中学校の学校課題の一つであるにとらえ、校内研修の研究主題の副題を「各教化における共同学習の実践」として、授業改善に取り組んだ。まず、N R Tや全国学力・学習状況調査、アセス（学校環境適応感尺度）の学習適応因子の数値などの結果を分析し、正確な実態把握に努めた。その結果を踏まえ、授業展開の中で、ペアや小集団など生徒同士による学び合い活動を行うとともに、その成果をアウトプットして、生徒にフィードバックする流れの授業実践に努めてきた。その結果として、平成30年4月実施のN R T（平成29年度の成果）の教科総合では、学力偏差値で全国平均をわずかではあるが上回ることができた。</p>	B

<p>(2) 道徳教育の充実</p>	<p>一人一人の子どもが、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を具体的な生活の中に生かし得るよう、道徳性の育成に努める。</p>	<p>【小学校】 児童の実態や学校の実態に即した授業展開を工夫し、道徳的な価値について考えさせる場面を取り入れながら道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度を高めるように努めてきた。 今後は、善悪の判断と節度ある言動について問題を抱えている児童もいるので、更に思いやりの心や感謝の心の育成を重点事項として取り組む必要がある。</p> <hr/> <p>【中学校】 平成28年度は、特別の教科「道徳」への移行を踏まえ、道徳推進教員を中心に全教員で1年かけて別葉を作成した。平成29年度は、この別葉に沿って試行しながら、教科をはじめ本校の行事など全ての教育活動との関連から修正を加え再整理し、「考え、議論する」道徳の本格的な実施に向けての準備を進めた。また、郷土愛を育むため地域ボランティア活動への参加を奨励しており、多くの中学生が参加して活動を盛り上げた。</p>	<p>B</p> <hr/> <p>B</p>
<p>(3) 特別活動の充実</p>	<p>一人一人の子どもが、望ましい集団や豊かな体験の中で互いの個性を認め合い、協力してよりよい生活や人間関係を築いていくことができるよう、自主的、実践的な態度の育成に努める。</p>	<p>【小学校】 委員会活動については、児童のやる気と実行力を高めるような組織と活動内容の工夫に努め、日々の活動や全校の場での発表を充実させることができた。 話し合い活動では、役割を交代することで、進め方や話し方などが分かり、聞く態度や発表力も向上してきた。ただ、消極的な児童への個別指導の進め方が今後の課題である。</p>	<p>A</p>

		<p>【中学校】</p> <p>平成28年度のアセス（学校環境適応感尺度）の結果では、向社会的スキル因子への意識の下降が、特に1年生に見られた。このことから、コミュニケーション能力や社会的スキルを身に付けさせるために、市販の「いじめ防止6時間プログラム」を活用し、全校でソーシャルスキルトレーニングに取り組んだ。また、望ましい人間関係をつくりよりよい集団生活を営むために、学校行事では連帯感を高める活動を意識的に取り入れてきた。</p>	A
<p>(4) 体育、健康教育の充実</p>	<p>一人一人の子どもが、全生涯にわたり自ら進んで運動に親しみ、健康・安全で活力のある生活を送ることができるよう、家庭や地域社会との連携を図りながら心と体を一体として捉え、健康でたくましい体を育む教育の推進に努める。</p>	<p>【小学校】</p> <p>様々な学習カードを活用し、運動の楽しさや喜びを味わわせるように工夫した。また、マラソンや縄跳びについては、がんばりカードを全校児童に渡し意欲付けを行った。目標であるグラウンド100周を達成する児童が前年に比べて増えた。</p> <p>また、町の代名詞でもあるスキー学習に力を注ぎ児童の冬場の体力作りの一助とした。</p> <p>食に関する指導においては、昼の放送や保健だよりを活用しながら食への関心を高めるとともに食中毒や感染症の未然防止も含めて食に関する正しい知識の啓発に努めた。</p>	A

		<p>【中学校】</p> <p>進んで運動に参加し健康な学校生活を営めるよう、多様な運動を系統的に体験させ、体を動かすことの習慣化を図るよう努めた。また、食に関する指導の全体計画と年間計画に沿って、家庭科と連携した食育の指導を行った。さらには、不注意による生徒のケガが目立つので、次年度は交通安全も含めた安全の指導にも力を入れていきたい。</p>	B
(5) 生徒指導の充実	<p>一人一人の子どもが、豊かな生活を送ることができるよう、家庭や地域社会及び関係機関等との連携を図りながら、心の結びつきを基調とした指導を行うとともに、問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応に努める。</p>	<p>【小学校】</p> <p>学校環境適応感尺度（アセス）を年3回実施し児童の日頃の学級における見取りを行い、教師が児童への関わり方を意識して取り組んだことから、学級生活に関わる様々な要因の数値が向上してきた。</p> <p>また、問題行動については全教職員で共通理解をし早期発見・早期対応を心掛けた結果、全校的に比較的落ち着いた生活ぶりであった。</p> <p>ただ、卒業生に不登校児童が2名いたことは残念なことであった。</p> <p>【中学校】</p> <p>青森県教育委員会から「思いやりを育む安心できる学校づくり実践事業」の研究校に指定され、アセス（学校環境適応感尺度）を実施して、生徒の学校不適応感の把握に努めてきた。その結果、被侵害的關係因子の数値は全国平均より高く、さらに年度の後半の方が高くなっている。いじめや否定的な友だち関係は少ない上に、徐々に少なくなっていることが分かった。生徒理解のための教育相談を行うとともに、生徒へのアンケートの回数も増やし、いじめや問題行動の未然防止及び早期発見及び早期解決に努めてきたことによると思う。</p>	B

<p>(6) キャリア教育の推進</p>	<p>一人一人の子どもが、自らの生き方を考え、社会的・職業的自立ができるよう、必要な基盤となる資質、能力、態度の育成に努める。</p>	<p>【小学校】 教育活動全体をキャリア教育の視点で捉え直し、体系的にキャリア教育を実践している。特に、進んで働く態度の育成においては、係活動、委員会活動、栽培活動等を充実させることで、目的を持って意欲的に学ぶ姿勢を身につけさせることができた。</p> <p>-----</p> <p>【中学校】 日常的に汎用的能力の育成に心がけているが、特に学級活動や総合的な学習の時間での進路学習と、1年生のふるさと体験学習や2年生の職場体験活動を関連させることで、キャリアプランニング能力を高め、進路実現に向けて努力する態度を育成することに努めた。なお、1年生のふるさと体験学習の予定日数が、台風の影響で減ったのが残念であった。また、全国的に活躍している手話通訳者を招いて進路講話を実施した。</p>	<p>B</p> <p>B</p>
<p>(7) 特別支援教育の充実</p>	<p>発達障がいを含む障がいのある子どもが、障がいによる学習上又は生活上の困難を主体的に改善、克服するとともに、その持てる力を最大限に発揮して自立や社会参加ができるよう、一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援に努める。</p>	<p>【小学校】 特別支援教育の大切さを確認するために、全員で研修を行ったところ、これまで以上に特別支援教育に対する認識が高まった。 また、教育相談の充実に努め、気になる児童と保護者との面談を重ねるようにした。その結果信頼関係を築くことができ、特別支援教育についての理解を深めることに繋がった。</p> <p>-----</p> <p>【中学校】 小学校と情報交換をよく行い、保護者との連携を図りながら、指導や支援に努めた。また、特別支援学級に在籍する生徒だけでなく、通常の学級に在籍する発達障がいの傾向がある生徒についても個別の指導計画を作成し、校内で共通理解した。次年度は、平成29年度の反省から年数回、全教員で個別の指導計画の見直しと確認を行う予定である。また、小学校の特別支援学級との合同学習も毎年行っている。</p>	<p>A</p> <p>B</p>

<p>(8) 環境教育の推進</p>	<p>一人一人の子どもが、環境と人間とのかかわりについて関心と理解を深め、環境に対する豊かな感受性を養うことができるよう、環境保全に主体的に取り組む態度の育成に努める。</p>	<p>【小学校】 学校と家庭、地域社会が連携をしながら資源回収の活動や学区の清掃活動を行い、環境に対する意識を高める取組を行った。2回目の資源回収では雑紙回収も行い、環境に対する意識を全校で高めることができた。 今後は、環境教育で学んだことを家庭や地域社会の中で生かすことを通して、環境問題の解決に向かう態度や行動力を身につけさせる必要がある。</p> <p>-----</p> <p>【中学校】 郷土を愛する気持ちを育てるために町と連携して、新入生によるつつじ植樹を入学記念として行っている。この行事は50年以上の歴史がある。また、学校花壇での栽培や寄贈された玄関前プランターの管理など、本校の現状に合った環境教育に取り組んだ。生徒による学校の清掃活動も年々丁寧に行われるようになってきた。</p>	<p>B</p> <p>B</p>
<p>(9) 国際化に対応する教育の推進</p>	<p>一人一人の子どもが、我が国や諸外国の文化と伝統について関心と理解を深めるとともに、国際社会に貢献できるよう、国際理解教育の推進に努める。</p>	<p>【小学校】 高学年において町AETの派遣を年間25回要請した。本校の外国語活動についての基本的な在り方を確立し、コミュニケーションを楽しむ授業を進めることができた。今後もより活用ができるよう関係機関と連携を深めていきたい。 次年度からは教科としての外国語活動の移行期間となるので今まで以上に研修を深めていく必要がある。</p> <p>-----</p> <p>【中学校】 校内に常勤のAETがいる恵まれた環境にある。生徒は英語の時間はもちろん昼休みのAETルームの解放や総合文化部の活動など日常的にAETと接している。この恵まれた環境を生かすとともに、ふるさと体験学習などを郷土学習と関連させることで、国際理解教育に取り組んだ。</p>	<p>A</p> <p>B</p>

<p>(10) 情報化に対応する教育の推進</p>	<p>一人一人の子どもが、情報活用能力を身に付けることができるよう、情報モラルにかかわる指導の充実を図り、系統的・体系的な情報教育の推進に努める。</p>	<p>【小学校】 学年にそれぞれ小型スクリーンを準備することにより I C T 機器を利用した授業が増えた。児童の興味関心を高める上で有効であった。 最近の児童を取り巻く情報化に鑑み、特に情報モラルに関する指導については、家庭や地域社会と連携した取り組みをしていく必要がある。</p> <hr/> <p>【中学校】 主に技術科の授業で、パソコンを活用する I C T 教育に取り組んでいる。ただし、技術科の専科教員がいないこともあり十分とは言えなかった。I C T 教育機器の整備も課題であるが、スマホ等の利用による生徒指導上の問題も懸念され、情報リテラシーや情報モラルに関する指導の必要性を感じている。平成 29 年度は 1 年生を対象に外部講師を招いて、「SNS・ネットトラブル防止教室」を行ったが、以降は毎年 1 学年ずつ行って行く予定である。なお、全職員に校務用ソフトが入ったパソコンが割り当たれば、情報教育と多忙化解消の一助となるであろう。</p>	<p>B</p> <hr/> <p>B</p>
<p>(11) 研修の充実</p>	<p>教職の専門性を高め、教育活動の充実を図るため、計画的・積極的な研修の推進に努める。</p>	<p>【小学校】 「思いやりを育む安心できる学校づくり」を校内研修の柱にして取り組んだ。研究発表会も有り、全員が一丸となって授業に取り組んだ成果として、教師としての指導力の向上が見られた。 今後も、やらされる研修ではなく、必要性を感じられる研修体制を作っていく必要がある。</p>	<p>A</p>

		<p>【中学校】 青森県教育委員会から「思いやりを育む安心できる学校づくり実践事業」の研究指定校に指定され、11月20日には本校を会場に、公開授業と研究協議会も含めた研究発表会を行うとともに、年度末にはその研究成果をまとめ文書で報告した。加えて、学校単独でも研究の成果を研究紀要にまとめ、関係機関に報告した。さらに、研究の発表会を行う準備として、外部講師を招いての研修会を年2回実施した。また、研究主題に沿った授業を全教員が指導案を作成して行い、指導主事から指導助言を受け、研究発表会での公開授業につなげていくなど、研修に関してはとても充実した1年であった。そして、年1回は校外での研修を積極的に受けるよう毎年奨励している。</p>	A
--	--	--	---

2 社会教育の推進

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成	青少年の体験的活動の充実に努める。	<p>ふるさと子ども教室において、学校教育内での実施が難しいねふた笛教室を地域の方を講師に迎え実施し、体験活動の充実に図った。</p> <p>現段階で実施されている体験的活動がねふた笛教室のみであることから、大鰐町の特色を生かしながら体験活動ができるよう考えていきたい。</p>	B
	地域が支えるキャリア教育の充実に努める。	<p>小学生による、東京都内にある青森県のアンテナショップでの地場産品売り込みなど、販売・宣伝活動等の体験を通じて流行や様々な仕事の存在に気付かせることができた。</p> <p>補助金の限度により、一部児童のみの参加となってしまうことから、近県や修学旅行においての実施によって、できるだけ多くの児童が参加できるよう関係機関と話し合いを持つ必要がある。</p>	B
	子どもの読書活動の充実に努める。	<p>導入された図書管理システムにより、小中学校においては児童生徒の読書状況の確認や読みたい図書を容易に探すことが可能となり、読書活動の活性化につながっている。また、利用件数の多い図書の傾向を知ることによって決められた予算で利用率が高くなると思われる図書を選んで購入することが可能になった。</p> <p>就学前の幼児の保護者の図書室利用が増加していることから、公民館図書室の幼児向け図書の充実に図った。</p>	A
	地域全体で子どもを育む活動の充実に努める。	<p>俳句会主宰者による小中学校での出前俳句教室の開催や赤十字奉仕団・生け花やお茶の団体による小学校のクラブ活動での指導。また放課後子ども教室には幼稚園や保育園の経験者がサポーターとして参加してくれている。さらには小学校低学年の登下校時間に合わせて交通安全母の会のメンバーが街角で声掛けをしてくれる。今後はこの活動が末永く続くように後継者の育成にも力を注ぎたい。</p>	A

	家庭教育支援の充実に努める。	<p>放課後子ども教室の実施を通して家庭教育の習慣化に努めてきた。また、保護者へ子どもの現状と家庭教育の大切さを理解してもらうために家庭教育講座を実施した。</p> <p>今後は幼児・児童や生徒を持つ保護者の方に多く参加してもらうために、講師や内容について吟味していく必要がある。</p>	A
(2) 活力ある地域コミュニティの形成に向けた人材の育成	地域活動の実践者の育成に努める。	<p>大鰐町青少年健全育成連絡協議会による民間交番『わにっこ安心ステーション』の運営管理により、児童生徒の安全安心と地域で子どもを見守る町づくりを推進することができた。また、小学生が安全に登下校できるように、常時通学路3か所に交通安全指導員を配置している。</p> <p>これからも、「スキーの町大鰐」であり続けるためには、スキー大会でボランティアをしてくれている方々の世代交代が必要である。関係機関と連携しながら取り組んでいきたい。</p>	A
	地域活動の指導者、コーディネーターの養成に努める。	<p>地域活動を行っている団体の代表者や個人からの相談にいつでも対応し、地域活動の実施に対する不安等の解消に取組み、将来のコーディネーター候補の育成に努めた。実績としては明確な結果を出すことはできなかったものの、団体及び関係者より初期段階から相談を受け町内各関係団体及び関係者と調整等の支援を行った。</p> <p>積極的な活動を行う団体及び個人への支援に力を入れ、指導者及びコーディネーターの育成に努めたい。また、教育委員会主体での事業運営に積極的に参加してもらえよう働きかけていきたい。</p>	A

	地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援に努める。	平成28年度に引き続き、可能な限り地域住民の講師活用を行った。現在新たな人財育成を図っていることから、今後は新たな人財を含めたネットワーク構築と拡大に努めたい。	B
(3) 一人一人の主体的な学習と社会参加の推進	関係機関との連携による多様な学習活動の支援に努める。	<p>成人大学・ふるさと子ども教室・放課後子ども教室・俳句教室等において役場や学校、その他の機関からの協力を得て講師派遣等を受けた。</p> <p>各団体からの支援拡大の協力を受けながら学習活動機会の拡充に努めたい。</p> <p>学習内容について町民の要望等に応じながら、多様な学習活動ができる機会を設けていきたい。</p>	A
	学習成果を生かした社会参加活動の支援に努める。	成人大学では俳句やグラウンドゴルフを体験をさせ、俳句大会やニュースポーツフェスティバル等への参加につなげることができた。より多くの学習者が学んだ成果を発揮できる場所を提供し、積極的に社会参加活動ができるように努めていきたい。	B
(4) 社会教育推進のための基盤整備	社会教育推進体制の充実に努める。	町社会教育行政の方針と重点に基づき事業を展開するとともに、社会教育委員や参加者の意見をいただき、事業内容の見直しを図ってきた。また、点検評価委員会からの評価や指摘事項に基づき、即対応・改善を図っていく体制作りもしていきたい。	B

<p>社会教育施設の機能の充実と活用の促進に努める。</p>	<p>図書管理システムの導入により、特に土日祝祭日の図書の貸出しの増加や町外からの蔵書問い合わせも増加している。また、役場各課の事業開催や高齢者や子どもたちの関係するスポーツ団体の会議の開催など、公民館の利用が予想を超えている。</p> <p>今後においても積極的な公民館の利用促進を図り、地域に根差した「行きたくなる公民館、利用したい公民館」の実現を目指していきたい。</p>	<p>A</p>
<p>社会教育関係職員の養成と資質の向上に努める。</p>	<p>社会教育関係事業に関する各種会議や研修会に積極的に職員派遣を行った。また、岩手大学で行われた社会教育主事講習に職員を派遣し社会教育主事の資格取得をさせた。</p> <p>町職員の社会教育主事資格所持者の定年退職や管理職登用により、現役の社会教育主事の減少が著しくなってきたので、計画的な社会教育主事の育成を図っていきたい。</p>	<p>A</p>
<p>社会教育関係団体等の活動の支援に努める。</p>	<p>各社会教育団体に職員を割り当て、団体活動の支援を行い活動の活性化に努めた。今後も継続的に社会教育団体を支えていきたい。</p>	<p>B</p>

3 文化財の保護活用

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(1)文化財の保護・保存	文化財を次代に伝えるため、適切に管理し、保護・保存に努める。	<p>大鰐町の文化財を保護し、次代に伝えることを目的として、文化庁にヤマニ仙遊館の国登録有形文化財の申請を行い、平成29年10月27日付けで、ヤマニ仙遊館本館と土蔵が国登録有形文化財として登録された。</p> <p>今後も国・県・町の種別に関わらず、次代に残すべき大切なものを積極的に登録していきたい。</p>	A
(2)文化財の公開・活用	文化財に興味・関心を持ち、親しめるよう、公開・活用と情報発信に努める。	<p>町で唯一の県指定文化財である『三ツ目内獅子(熊)踊』の知名度を高めることと、技を磨くために各所において行われるイベント等への出演紹介等を積極的に行った。その成果として、平成29年度には羽黒神社宵宮で獅子踊りを披露し、「地区の文化財」から「青森県の文化財」に一歩踏み出すことができた。</p> <p>今後も、積極的に公開の場を開拓していきたい。</p>	A
(3)伝統芸能・技術の継承	保存・伝承されてきた伝統芸能や技術の継承に努める。	<p>特に後継者不足に悩まされている伝統芸能団体には、地域内外を問わず継承者を広く受け入れて後継者育成に取り組むよう要請している。</p> <p>また、町外の同種の団体と交流・情報交換等ができるよう働きかけを行っている。</p> <p>今後は、町外における伝統芸能技術の継承の仕方を参考にしながら本町の継承にも生かしていきたい。</p>	A

4 生涯スポーツの振興

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(1) 学校体育・スポーツの充実	健康保持増進と体力の向上を図ることができるよう、学校体育・スポーツの充実に努める。	地域の特色であるアルペンスキーやクロスカントリースキーが楽しく親しみを持てるよう、学校でのスキー行事時や町内居住の小中学生にスキーリフト無料券を配布することにより、児童生徒の体育・健康教育の振興を図ることができた。	A
(2) 健康教育の充実	学校保健、学校における食育及び学校安全を総合的に推進し、健康教育に努める。	学校給食センターが地元の食材や特産品を使用しながら、地産地消の食育活動を行った。これを通して児童生徒の地元への愛着や興味関心を高めることにつなげることができた。 また、学校給食センター栄養士と給食担当教諭の連携によって食物アレルギーの回避など、安全な学校給食を実施することができた。	B
(3) スポーツの振興	スポーツに親しむ環境づくりと競技力を向上させる環境づくりを推進し、スポーツの振興に努める。	スキー競技については、H26年度からH28年度にかけて全国大会を開催したため、設備等については完璧な状態である。そのため、これ以後行われるスキー大会は大きな整備は必要ないと考えている。また、グラウンドゴルフについても協会で随時整備し、いつでもプレイが可能な状態である。 ただ、ニュースポーツ等が行われてきた旧スキーセンタープラザの老朽化が進んできたため、代替施設を探す必要が出てきた。	B

Ⅷ 平成29年度 主な事業と経費及び成果等

区分 事業名	決算額 (千円)	事業内容	成果等
部活動補助金	6,626	<p>大鰐町の小学校及び中学校における部活動等の充実及び発展を図るため、児童生徒が選手として対外試合・大会等に参加するために要する経費に対する補助をするほか、必要に応じて備品の購入に係る経費も補助している。</p> <p>小学校 4,954,300 円 中学校 1,671,767 円 計 6,626,067 円</p>	<p>大鰐小学校においては、あじやらBBC（野球チーム）を西日本大会、ソフトボール部を全国大会、マーチングバンド部を全国大会、スキー部を全国大会に出場させることができ、選手は練習の成果を発揮させるとともに、日頃の練習の励みにもなった。</p> <p>また、大鰐中学校においては、スキー部の全国大会の大会派遣費を補助したことにより、他県の選手との交流や大舞台での経験などの貴重な体験をさせることができた。</p>
生きる力育成事業	1,497	<p>『生きる力』を支える「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を育むために、決められた予算内において学校長の裁量で自由に予算執行できるようにした。</p> <p>小学校 762,000 円 中学校 735,000 円 計 1,497,000 円</p>	<p>小学校においては、ドリルや問題集を各教科や家庭学習の習慣化で活用し、基礎基本の定着に効果を発揮した。</p> <p>また、中学校では受験対策の教材を効果的に使い、学力向上が図られた。</p>
AET招致事業	5,295	<p>人件費 4,123,551 円 需用費 405,668 円 住宅借上 106,109 円 備品購入 143,636 円 負担金 243,165 円 他 272,782 円 計 5,294,911 円</p>	<p>中学校にAETを配置することによって、生きた英語の体験や異文化を理解する機会となった。また、小学校に派遣することによって英語に親しみ、いわゆる中1ギャップの解消にもつながった。さらには異国の習慣や国際感覚を身に付けるようになった。</p>

スクールバス運行事業	13,911	長小方面 8,540,899 円 二小方面 2,858,652 円 駒木方面 2,511,648 円 <hr/> 計 13,911,199 円 * 島田・早瀬野方面は町所有のバスを使って町職員が運行している。	遠方から通学する児童の安全と利便性を確保するためにスクールバスを運行した。 また、これまでデマンドバスを利用させていた駒木方面を平成29年度からスクールバスに変更した。
小学校改修事業	786	渡り廊下床張替 561,600 円 倉庫屋根修繕 155,476 円 体育館外灯 69,120 円 <hr/> 計 786,196 円	学校施設・設備の改修工事等を実施することにより、適切な教育環境の維持管理が図られた。
中学校改修事業	12,840	野球部部室撤去 79,920 円 フェンス改修 1,092,528 円 部室屋根改修 1,182,600 円 B棟煙突解体 9,253,440 円 A棟雪止め設置 1,231,200 円 <hr/> 計 12,839,688 円	

区分 事業名	決算額 (千円)	事業内容	成果等
小学校扶助費	6,370	【就学援助費・特別支援教育就学奨励費】 学用品費等 1,542,020 円 給食費 2,188,760 円 医療費 18,076 円 <hr/> 小計 3,743,210 円 遠距離通学費 2,621,280 円 <hr/> 合計 6,370,136 円	【就学援助費・特別支援教育就学奨励費】 経済的理由により就学困難な児童生徒の保護者及び特別支援学級で学ぶ児童生徒の保護者に対し、教育を受けるうえで必要な学用品費や学校給食費の扶助をすることで、義務教育の円滑な実施がなされた。

中学校扶助費	4,942	<p>【就学援助費・特別支援教育就学奨励費】</p> <p>学用品費等 2,504,431 円 給食費 1,532,100 円 医療費 0 円</p> <hr/> <p>小計 4,036,531 円</p> <p>遠距離通学費 905,400 円</p> <hr/> <p>合計 4,941,931 円</p>	<p>また、今年度から支給対象となっている新入学児童生徒には入学前に学用品費を支給している。</p> <p>□扶助対象者数 小学校 49名 中学校 32名</p> <p>【遠距離通学費】 遠距離地域から通学する児童生徒の保護者に対し、通学費の全部または一部を扶助することで、保護者の経済的負担の軽減と義務教育の円滑な実施がなされた。</p> <p>□扶助対象者 小学校 54名 中学校 23名</p>
--------	-------	---	--

区分 事業名	決算額 (千円)	事業内容	成果等
生涯学習推進事業	285	生涯学習だより 成人大学 ふるさと子ども教室 成人式等各種事業の実施	社会の変化やライフステージに即した事業及び子どもたちが地域文化に触れることのできる事業を展開し、町民一人一人が主体的に学ぶ機会の提供を行った。
俳句の街づくり推進事業	216	大鰐温泉俳句の街づくり実行委員会	名誉町民である増田手古奈氏の功績を称え俳句大会を実施している。県内一円からの参加者と県内外からの投句があり、俳句の町づくりに貢献している。
生涯スポーツ推進事業	958	生涯スポーツの推進・普及のため、スポーツ推進委員を各種大会に派遣し指導・助言を行った。また、旧スキーセンタープラザをニュースポーツ広場として毎週土曜日と日曜日に開放した。	スポーツ推進委員が主体となって開催するニュースポーツフェスティバルは約50名が参加し大盛況となったが、平成30年度旧スキープラザが老朽化のため使用できないことから開催場所の変更が考えられる。

図書購入事業	498	図書購入費	児童書・一般書、生活関連雑誌等を購入し、町民の利用に供することができた。
公民館改修事業	924	温泉熱利用埋設ロードヒーティング修繕他	ロードヒーティングの修繕や外部階段手摺修繕、給水管凍結防止帯巻き修繕などを行い施設利用者の安全・快適を確保することができた。
放課後子ども教室推進事業	1,255	放課後子ども対策事業(補助率国 1/3 県 1/3)教育支援サポーター、コーディネーター謝金等	中央公民館、旧第二小学校で実施し、放課後における児童の安全・安心な居場所づくりと有益な余暇活動のための放課後子ども教室を開催することができた。
各体育団体補助金	1,722	町体育協会 950,000 円 県民駅伝競走大会 480,000 円 各種スキー大会 292,000 円 計 1,722,000 円	スキー競技大会や各種スポーツ団体が所属している体育協会、県民駅伝競走大会実行委員会への補助を行い、競技スポーツの振興に一翼を担うことができた。

区分 事業名	決算額 (千円)	事業内容	成果等
スキー大会用施設整備事業	3,490	クロスカントリー管理棟塗装等修繕 1,095,120 円 クロスカントリーコース伐木等整備 740,000 円 クロスカントリー競技用機器 1,654,236 円 計 3,489,356 円	第90回全日本学生スキー選手権大会を行う際に、クロスカントリー競技を行うため、コース上の伐木作業等の整備やクロスカントリー競技本部になる管理棟の老朽化防止と安全確保のため塗装修繕を行い無事大会を終えることができた。
スキーリフト使用料補助事業	502	(延べ人数) 小学生 297 人 311,850 円 中学生 131 人 189,950 円 計 428 人 501,800 円	町内居住の小中学生にスキーリフト1日券を5日分配布し、本町の特徴であるスキーに親しむ機会を増やし、楽しみながら健康な体づくりをすることに貢献できた。

IX 評価委員による点検・評価

【教育委員会会議について】

毎月1回の定例会議が開催され、概ね適切に議論がなされている。会議では定例の業務報告がなされている他、学校給食センター就業規則や社会教育施設管理規則の改正についても適宜議論されている。また、小学校や中学校の入学式・運動会等の行事や各種研修会に、教育委員全員が参加されていることも評価できる。

【学校教育の推進について】

「授業の充実」の項目については、小学校では全国学力テストで全国平均を上回る成果を上げ、中学校では「確かな学力を身に付ける」ことで一定の成果を上げている。全国的には文章題を読み解く学力の向上が課題とされているところであり、引き続き「確かな学力」の向上に努めていただきたい。「特別活動」等の項目でも、一人ひとりの生徒の自主的・実践的態度の育成で成果を上げていることが注目される。今後、地域住民や関係機関等との連携・協働に努めていただきたい。

【社会教育の振興推進について】

「子どもの読書活動」や「地域全体で子どもを育む活動」、「家庭教育支援」、「地域活動の実践者の育成」、「地域活動の指導者、コーディネーターの育成」、「関係機関との連携による多様な学習活動の支援」、「社会教育施設の機能充実と活用の促進」といった項目では、これまでの公民館活動の蓄積を基盤とし、また、新たな図書管理システムの導入という条件もあって、大きな成果を上げている。今後、住民一人ひとりの学習を育むとともに、他の行政部門や社会組織・ボランティア等との連携・ネットワーク構築を目指して欲しい。

【文化財の保護活用について】

「文化財の保護・保存」や「文化財の公開・活用と情報発信」、「保存・伝承されてきた伝統芸能・技術の継承」という項目では、いずれも大きな成果を上げている。「ヤマニ仙遊館」が国登録有形文化財に登録されたことをふまえ、広く町内外に情報発信していただきたい。また、「獅子踊」の保存を図るためのPR等を引き続き行うとともに、北東北・北海道の縄文遺跡群の世界遺産登録を図る取り組みに呼応して、地域内の埋蔵文化遺産についても積極的に調査等を実施していただきたい。

【生涯スポーツの振興について】

「学校体育・スポーツの充実」という項目では、小・中学校において大きな成果を上げている。この間、全国大会開催に向けてスキー施設設備が整備されてきたことをふまえ、今後はグラウンドゴルフやニュースポーツ関連の施設設備の充実を計画的に行っていただきたい。また、食育・健康教育の充実を図っていただきたい。